

特集 **すぐそこにある危機**

首都直下地震

その時、あなたは**どうしますか？**

首都直下地震とは、東京都を含む関東地方を震源として起こる、マグニチュード7クラスの巨大直下型地震のことです。首都は国の政治や経済などの中枢であり、大地震が起こると甚大な被害が予想され、国や都でも防災対策が検討されています。

地震は、いつ、どこで起こるか分かりません。一人一人が自分のこととして考えておく必要があります。

圏防災課 ☎5723-8700、☎5723-8725

データで知る 震災の怖さ

関東大震災は、マグニチュード7.9と推定される大正関東地震によってもたらされた災害です。地震の大きさもさることながら、発生時間が昼食時であったため、火災が同時多発的に発生。折からの強風にあおられ、東京市(当時)の約4割もが焼失する大規模な火災に発展したのです。死者・行方不明者は10万人に上り、全壊・全焼の家屋が約29万棟という、未曾有の災害となりました。

その後、1995年に兵庫県南部地震による阪神・淡路大震災、2011年には東北地方太平洋沖地震による東日本大震災が発生しました。3つの震災は、それぞれ起こった地域や時間などにより、被害の特徴が違います。これらの震災を教訓にして、日頃から防災意識を高めることが何より大切です。

日本で発生した 主な震災と被害

	関東大震災	阪神・淡路大震災	東日本大震災
マグニチュード	7.9	7.3	9.0
発生	1923年9月1日 11:58	1995年1月17日 5:46	2011年3月11日 14:46
死者・行方不明者	約105,000人	約5,500人	約18,000人
主な死因	火災による焼死	倒壊による窒息・圧死	津波による溺死
全壊・全焼住家	約29万棟	約11万棟	約12万棟

出典：内閣府「令和5年版防災白書」

そして、**今**

関東大震災以後、耐震規定の制定(国)や地震研究が進展し、さまざまな被害が想定されています。また、都は東日本大震災の経験を踏まえ、首都直下地震などの被害想定を10年ぶりに見直しました(4年公表)。

30年以内に東京で大地震が発生する確率は **70%**

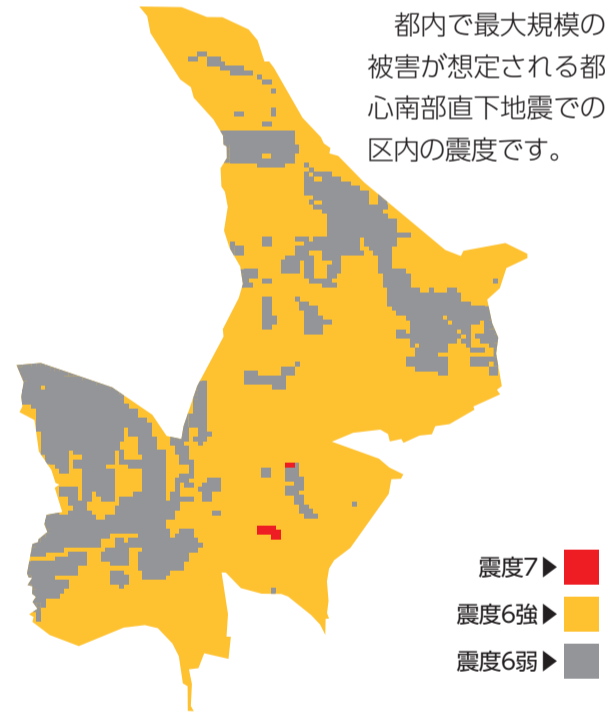
出典：都防災会議「首都直下地震等による東京の被害想定」(4年5月25日公表)

その時、**区内の被害** は

マグニチュード7.3の都心南部直下地震が起こった場合の区内の被害想定は、次の通りです(冬の晴れの日、夕方で風速8m/秒として算出)。

建物の被害	全壊数	1,827棟	人の被害	死者	161人
	半壊数	4,551棟		負傷者	2,064人
	焼失数	4,426棟		避難生活者	47,448人
	エレベーター閉じ込め数	551台		帰宅困難者	58,466人

その時、**区内の震度** は



その時、**ライフライン** は

被害状況によっては、復旧までに想定以上の日数が必要になる場合も考えられます。

<p>電力</p> <p>停電率15.7%</p> <p>復旧まで 約4日</p>	<p>水道</p> <p>断水率25.2%</p> <p>復旧まで 約30日</p> <p>※上水道が復旧しても、下水管の修理が終了するまで下水は流せない可能性も</p>	<p>トイレ</p> <p>下水道管の被害率6.5%</p>
<p>ガス</p> <p>供給停止率47.3%</p> <p>復旧まで 約6週間</p>	<p>固定電話</p> <p>不通率8.1%</p> <p>復旧まで 約4日</p>	<p>鉄道</p> <p>復旧まで 約30日</p>
		<p>道路</p> <p>復旧まで 約1週間</p> <p>※段階的に規制解除</p>

自分の身の回りに起こる被害想定を確認できます



東京被害想定マップ

首都直下地震等で想定される震度や被害の分布などが地図上で表示され、自宅等の状況を確認できるサイトです(コード①)。

東京マイ・被害想定

家族構成や建物構造、地域などの情報を入力することで、入力した環境下で想定される被害を確認できるサイトです(コード①)。

地震発生! その時、あなたは **どこに** いる?

朝 その時、**移動中** だったら

電車・バスなどの中	運転中	歩行中
<p>手すりやつり革をしっかり握り、転倒を防止する。また、バッグなどで頭部を守る。</p>	<p>急ハンドル・急ブレーキを避け、ハザードランプをつけて、できるだけ安全な方法で道路の左側に車を止める。</p>	<p>バッグなどで頭部を守る。塀やビルの壁際やガラス面、電柱、自動販売機などから離れる。</p>

昼 その時、**会社や学校** にいたら

オフィスや教室で	エレベーターの中
<p>オフィスや学校では、机の下に入って身の安全を確保する。キャビネットや窓ガラスなどの倒壊にも注意する。</p>	<p>エレベーターの中では、揺れを感じたら全ての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りる。</p>

夜 その時、**家** にいたら

リビングで	就寝中
<p>テーブルの下に入って身の安全を確保する。家具の転倒に注意し、退路を確保する。</p>	<p>地震に気付いたら大きな家具から離れる。ベッドや机の下に入り、枕や布団を使って頭部を守る。</p>
キッチンで	お風呂で
<p>食器や調理器具などがあるキッチンは危険が多いため、早く離れる。火をつけている場合もまずは身の安全を確保する。</p>	<p>洗面器や浴槽のふたで頭部を守る。素早く扉を開け、退路を確保する。</p>

地震は、いつ、どこで起こるのか予測できません。大きな揺れが起こった瞬間、どのような行動を取るべきなのか、シチュエーションごとに覚えておきましょう。

揺れが収まったら

- 公共交通機関の場合は、乗務員の指示に従う
- 運転中の車から離れる場合は、窓を閉めてドアはロックせず、鍵は付けたまま避難する
- 外にいる場合は、公園などの広い場所や、頑丈な建物に避難する

危険! 群衆なだれ

群衆なだれは、人が密集した空間で1人が倒れることで次から次へと人が転倒する現象。過去には死者が出た事故もあります。駅や建物などで、避難を急ぐ人が集中するととても危険です。群衆なだれを回避するには、冷静に様子を見て、われ先にと避難を急がないことが大切です。

揺れが収まったら

- 警備員や教師の指示に従って避難する
- 避難時はエレベーターを使わない
- 勝手に帰宅しない

帰宅が困難な場合

十分な情報のないまま、やみくもに帰宅することは危険です。まずは職場や学校、近くの一時的滞在施設など安全な場所にとどまり、家族や自宅の状況を確認しましょう。帰宅を開始するのは、安全に帰ることができることを確認してから。職場や学校、施設の指示・誘導に従って行動しましょう。

揺れが収まったら

- 退路の確認、家の被害状況を確認する
- スリッパや靴を履き、割れ物などによるけがに注意する
- テレビやラジオ、インターネットなどで正確な情報を得る
- 避難する場合は、ガスの元栓を閉め、ブレーカーを落とす

避難する時の判断

避難所の受け入れ人数には限りがあり、避難所生活は想像以上に大変です。倒壊や火災延焼の危険がなく、居住できる状況であれば、在宅避難をしましょう。そのためにも、日頃から自宅で避難生活ができるよう、備えをしておくことが大切です(4・5面参照)。

災害時の行動を分かりやすくまとめた冊子があります **防災行動マニュアル**

防災センター、総合庁舎本館1階区政情報コーナー、地区サービス事務所(東部を除く)などで配布するほか、**区図**(コード②)でご覧になれます。

